

半世紀前からの

「今、蘇る『文集』」

贈り物

蒲都市民間大使
内田雅敏プロフィール
蒲都町生まれ
東京弁護士会所属
著書「乗っ取り弁護士」
「これが犯罪?ピラ配りで
逮捕を考える」など多数

前号までのあらすじ

思いもかけず内田氏に届いた小学2年のときの文集。「馬」を読んだ彼は、当時は荷車を牛馬が引いており、自動車は珍しく、砂ぼこりを巻き上げながら走り去っていくボデイとエンジンだけの裸トラックをワクワクして見ていたことを思い出しました。

犬

わたくしんとこの犬は、ぜんぶで5匹いましたが、1匹きは犬ごろしにつかまってしまいました。4ひき、ぜんぶ死にましたので、おはかをつくってやりました。(K・M女児)
たけやぶに、いぬとりのわながかけてあった。どっかの

いぬがわなにひつかかった。「きゃんきゃん」なっていた。とおりがかった人に、「たすけてあげりん」というと、「そこらじゅうわなだらけでおれのほうがわなにはまっちゃう」といつてとつてくれなかった。
ばん、よその人にきいたら「にげたな」といった。わたしは、ライオンのえさになるよりにげてよかったと思った。(J・A女児)

犬ころしの話が結構多い。本来は野犬狩りであったと思うが、当時は今と違って飼いだも鎖につながれず、ほとんどが放し飼いであったので、よく連れられてしまったのだ。
ただし、ライオンのエサというのは、大人たちが子供を怖がらすために流した虚説であろう。とにかく犬ころしは、ライオンのエサにするために、犬を捕まえていつてしまふ恐ろしい人という強烈なイメージがあった。(つづく)

みんなで考えまい!

蒲都のまちづくり

「都市計画マスタープラン」



蒲都や塩津の会議では、どんな意見が出たの?

山の方は自然も名所もあって、道路を整備して、観光客や市民が憩える場所をつくる。ほんため、大クスや安楽寺などをもっと市民にもPRせんといかんなあと言った。



みかん仙人
すなメリー

まち中は、水族館などの施設や花や緑で歩きたくなる道、特に海沿いに遊歩道やサイクリングロードなんかつくって、まちの素材をいかしたらいいのんってことじゃった。塩津の地区でも、竹谷城跡から亀岩までのウォーキングコース、競艇の駐車場の非



これらのアイデアってこれからどうするの?

住民会議じゃあ、いいトコを良くするアイデアと、地域でできる事、行政にやってもらう事の優先度も話したんじゃ。みんなのまちじゃから、「まちの方針」はみんなで考えるのが一番だのん。



住民会議でいろいろ話されてるんだ。

そうじゃよ。しかも、みんな、仕事や家の用事があるで、夜、会議をやっとるんじゃ。まあ、蒲都が好きだもんで、がんばってくれるんじやろな。そういやあ、今度の住民会議で各地区のまちづくりの合言葉を話し合うんじや。みんなが住み続け、お客さんにも来てもらえる、魅力あるまちにしていきたいのん。

計画開発課 ☎66◆1142